

## 民生品からの VOC 排出量の扱いについて(中間報告・案)

### 1. 背景・経緯

平成 21 年度、東京都において、民生品の使用に係る VOC 排出量の調査が行われた。

その結果、VOC 排出インベントリで推計対象としていない商品の使用による排出量が全国で 4 万トン/年程度であることが分かった(ただし、一部は VOC 排出インベントリの参考推計の対象となっている)。

これら民生品のうち、顕著に VOC 排出を行っている 6 品目について、VOC 排出インベントリにおける扱いを検討するために、情報収集を行っているところである。

### 2. ヒアリングの状況

業界団体へのヒアリングの状況は、表 1、表 2 のとおりである。

回答済み 1 団体以外においては、団体内部でとりまとめを実施しているところである。

個別の内容はとりまとめ中であるが、代表的な意見を以下に示す。

表 1 民生品からの VOC 排出量推計についての問い合わせ状況

商品分類	問い合わせ先 業界団体	状況
芳香・消臭剤	芳香消臭脱臭剤協議会	取りまとめ中
化粧品	日本化粧品工業連合会	回答あり
防虫剤	日本繊維製品防虫剤工業会	取りまとめ中(2/25 訪問予定)
医薬品	日本製薬工業協会	取りまとめ中
洗車、補修用品	オートケミカル工業会	取りまとめ中
噴射剤	(社)日本エアゾール協会	取りまとめ中(2/17 訪問)
芳香・消臭剤、 化粧品等の香料	香料工業会	確認中(2/21 訪問)

表 2 民生品からの VOC 排出量推計についての補足的ヒアリングの状況

商品分類	ヒアリング内容等
防虫剤	<p>パラジクロロベンゼン以外の物質について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境省のPRTR調査のために、パラジクロロベンゼンのみ会員企業にアンケート調査を実施して、全国数量を把握</li> <li>● ナフタレンと樟脳も扱っているが、数値は把握していない。</li> <li>● パラジクロロベンゼンの出荷量は減少傾向にあり、ピレスロイド系の防虫剤に移行しつつある。</li> </ul> <p>(以上、東京都調査結果より)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ピレスロイド系の防虫剤に移行しつつあるが、定量的なデータはない。</li> </ul> <p>(日本繊維製品防虫剤工業会へのヒアリングより)</p>
香料	<p>香料のうち大気中に放出される量について、あるいは、芳香・消臭剤、化粧品との関係について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● VOC 排出インベントリ(参考推計)において、香料の出荷量を 16 万 t/年としているのは、ダブルカウントである。</li> <li>● 東京都調査結果における化粧品、芳香剤のうち、香料成分の推計は妥当と考えられるが、化粧品のうち、頭髮用、皮膚用、仕上げ用等に用いられる香料の多くは水に排出され、大気には排出されないのではないかと。</li> </ul> <p>(香料工業会にて確認中)</p>

### 3. 今後の対応

今後の対応としては、以下の案を考えている。なお、推計方法等については、資料 2-2 に整理を行った。

- 来年度調査の課題とする。
  - 今年度においては、全て参考値とする。
  - 来年度において、取扱について検討する。
- 今年度中に取扱を決める。
  - 検討会(第 18 回)において方針を決定し、具体的な取扱については、座長に一任する。